

409 よくわかる！管工事施工管理技術検定 二次検定

本書の掲載内容に下記の誤りがございました。

ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

箇所	訂正
p.105 〔設問4〕 解答を入れ替えてください。	現在施工中の作業 C,D,E は短縮の対象外となるので、短縮が必要となるルートはトータルフロートが -4 となる作業 F → I (⑤ → ⑧ → ⑨) のルートで合計 4 日間、同様にトータルフロートが -1 となる作業 H (⑥ → ⑦ → ⑧) で 1 日間の短縮を考慮する必要がある。
p.106 〔設問3〕 の解説を挿入	<p>所要工期が 35 日となった工事を当初工期である 31 日で完成させるための方法を以下に示す。</p> <p>①当初工期 31 日を最終イベントの最遅完了時刻として、各イベントの最遅完了時刻を再計算する。</p> <p>②各作業のトータルフロートを計算する。</p> <p>③トータルフロートがマイナスとなる作業に注目し、この作業で必要日数分の短縮を行う。</p> <p>上記①、②を再計算し、③のトータルフロートを計算したものを示す。</p> <p>(注) 各イベントの□の数字：最遅完了時刻 各イベントの数字：最早開始時刻 [] の数字：トータルフロート</p>